
スイッチ

催吐剤

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スイッチ

【Nコード】

N7878P

【作者名】

催吐剤

【あらすじ】

自動販売機で缶コーヒーを買った。

マサオは自動販売機で缶コーヒーを買った。

取り出した缶のあまりの熱さにマサオは思わず「熱い！」と叫び、缶を落とした。

マサオの手から滑り落ちた缶はガードレールをくぐり抜け、アスファルトを転がった。

一匹の黒猫がマサオの目の前を通り過ぎ、缶を追って車道へと飛び出した。

車道を走っていたトラックの運転手は、急に飛び出てきた黒猫を避けようとハンドルを切った。

黒猫はタイヤとタイヤの間を巧みにすり抜けたが、缶は運悪くタイヤに掠った。

タイヤに掠った缶は加速しながら道路を横切り、向こう側の歩道へと転がった。

携帯電話をいじりながら歩いていた若い女が缶を踏んづけて転んだ。

転んだ女の履いていたヒールが脱げ、弧を描いて天高く飛んだ。飛んだヒールはアパートのベランダに干されていた白いシャツにぶつかった。

洗濯バサミが外れ、シャツは空中へと躍り出た。

シャツの端にベランダの柵の上に置かれた植木鉢の枝が引っ掛かった。

植木鉢はシャツに引っ張られ、バランスを失い落下した。

重力によって加速した植木鉢は、自動販売機の前で、自分が落とした缶コーヒーのせいで転んだ女をぼんやりと眺めていたマサオの頭に勢いよくぶち当たった。

脳天から血を噴き出しながらマサオは歩道に大の字に倒れ、気を失った。

倒れたマサオの上にフワフワとシートが舞い降り、マサオの右腕と右脚を覆い隠した。

仰向けに倒れたマサオの左手の上のあたりには丁度よくマンホールがあつたので、その様子を上空から眺めたらカタカナの「ピ」に似ていなくもないような、そんな気がした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7878p/>

スイッチ

2011年1月4日04時24分発行